

## 【体験レポート】 イベント業界の男性管理職が “生理痛を体験して考える”理解促進ワークショップを実施 ～判断力・安全性・現場リスクに直結する課題が可視化～

イベントの企画・運営・制作を手がけるバンセイ株式会社（本社：東京都豊島区、代表取締役社長：上田浩太郎）では、2026年1月28日(水)、健康経営を重要な経営方針の一環として、男性管理職・中堅社員約20名を対象に、生理痛体験ワークショップを社内で開催しました。

参加者は生理痛 VR 体験装置「ピリオノイド」を装着し、実際の機材を持ち運ぶ作業を行い、痛みがある中での作業のしづらさや集中力への影響、作業効率の変化を体感。男性管理職自身が女性社員の体調負荷を体験することで、性別に関係なく安心して体調について相談できる職場づくりを目指す取り組みです。



### 男性中心の現場で“即時判断”が求められるイベント業界ならではの課題

イベント制作・設営・運営を担う当社では、限られたスケジュールの中で、即時判断や高い品質が求められる現場業務が多く、体調不良があっても業務を優先せざるを得ない環境が常態化しています。その結果、個々の不調が表に出にくく、健康管理が個人任せになりがちであることが課題でした。

また、男性社員・男性管理職の比率が高い職場環境の中で、生理や PMS など外から見えにくい女性特有の不調について理解や共通認識が十分に形成されにくい状況にありました。管理職においても、部下の体調変化にどのように配慮すべきかわからないといった声もありました。

こうした中、社内で定期的に行っている女性社員向け意見交換会「女性推進会議」において、女性社員から「生理休暇が取得しづらい」「生理に伴う不調をどのように伝えればよいかわからない」といった声が挙がりました。

この声を受け、生理に関する課題は個人の問題ではなく、職場全体で理解を深め、環境として支えていくべきテーマであると捉え、今回の体験会を企画しました。

### 実際の機材を用い、イベント設営現場を再現した体験研修

本体験では、イベント設営現場を可能な限り再現した体感型プログラムとして実施しました。

研修会場には、実際のイベント設営現場で使用するトラス（ステージ設営などに用いられる金属製の骨組み）を持ち込み実務に近い作業環境を再現。参加者は、生理痛 VR 体験装置「ピリオノイド」を装着した状態でトラスを持ち上げ、運搬する作業を行いました。

腹部に痛みや違和感がある中で身体を動かすことで、動作のしづらさや力の入りにくさといった身体的な変化に加え、集中力や判断力の低下、作業スピードや安全確認への影響を通常時との明確な違いとして体感できる構成としました。イベント設営の現場では、重い機材を扱いながら、周囲の安全確認や工程判断など、即時かつ正確な判断が求められ

ます。そうした業務特性の中で、生理痛という身体的負荷が、判断・安全・品質にも影響を及ぼすことを、実務に即した形で体感してもらった内容としました。

#### 【開催概要】

開催日：2026年1月28日（水）

時間：14:00～15:00

参加者：男性管理職・中堅社員 約20名

内容：専門講師による解説／生理痛VR体験装置「ピリオノイド」を用いた生理痛疑似体験（イベント設営現場を想定した体験）／ワークショップ（ディスカッション）

会場：バンセイ株式会社（東京都豊島区南大塚 2-32-9）



## 今参加者の認識が「個人の不調」から「現場リスク」へ変化

その結果、ワークショップ後のアンケートでは、生理痛が判断力や安全性、業務品質に影響するという理解が共有され、職場として向き合うべきテーマであることが明確になりました。

#### ＜参加者アンケート結果＞

- 生理痛が業務判断に影響すると感じた：100%
- 体調不良時は、安全面のリスクが高まると感じた：100%
- 生理痛を体感したことで、現場での判断の難しさを実感した：90%

これらのアンケート結果を裏付ける形で、実務を想定した体験を通じて、生理痛を「配慮の話」ではなく、現場運営や安全管理に直結する課題として捉え直したという声も多く聞かれました。

「痛みがあると集中できず、判断にも影響が出ると感じました。」（営業制作部・男性）

「この状態で現場作業を行うのは厳しく、安全面でも不安を感じました。」（営業制作部・男性）

また、女性社員からは、「現場ではトイレが近くにないなど、体調が悪くても無理をしがちな環境があります。」という声もあり、現場環境そのものを見直す必要性が浮き彫りになりました。

本体験を通じて、参加者の間では「体調不良を前提とした現場判断や声かけが必要」という共通認識が生まれ、制度や運用を含めた改善を検討するきっかけとなっています。



## 今後の展望

今後は本体験で得られた気づきをもとに、誰もが安心して働ける職場環境づくりを進めていきます。

具体的には、体調に応じてこまめに休憩を取れる運用の検討や、当事者の状況を踏まえたコミュニケーションのあり方の共有に取り組むとともに、生理休暇を含む女性向けの休暇制度の導入など柔軟な働き方の選択肢についても検討を進めていく予定です。

また、生理に限らず、個々の事情や体調に配慮をしながら働き方を選べる環境づくりを通じて、現場・オフィス双方での生産性向上と相互理解の促進を目指してまいります。

#### ＜代表コメント＞

今回、管理職を対象に、月経に伴う体調不良への理解を深める研修を実施しました。

疑似体験と講義に加え、各テーブルには女性社員も参加し、実際の声や日頃感じている課題を直接共有できる場を設けました。

体験と当事者の意見をあわせて聞くことで、痛みや不調が判断力や集中力に影響し、現場の安全性や業務品質にも直結する課題であることを、管理職自身が実感する機会となりました。

研修後には、「本人の我慢に委ねるのではなく、管理職が先に気づき、判断することが重要」「体調不良を理由に声を上げやすい環境こそが、現場リスクを下げる」という認識が共有されました。

女性社員からの率直な意見に触れたことで、体調の問題を“個人の事情”として扱うのではなく、組織としてマネジメントすべきテーマであるという視点への変化が生まれたと感じています。

当社では、こうした学びを一過性の取り組みで終わらせるのではなく、日常の運営や制度に確実に反映させていくことが重要だと考えています。

今回の声を受け、当社では早急に職場環境や制度の見直しを進め、管理職が現場で判断しやすい、実効性のある形へと落とし込んでいきます。(代表取締役社長 上田浩太郎)

※本取り組みは、生理やPMSの苦痛を軽視・娯楽化することを目的としたものではありません。

※体験内容は医学的な完全再現ではなく、理解促進を目的とした疑似体験です。

※取材・撮影に際しては、参加者のプライバシーや心理的負担に配慮し、撮影範囲・表現内容について事前にご相談させていただく場合がございます。

※本取り組みは、株式会社マイナビ提供プログラムを活用しており、発信内容については事前確認のご相談をさせていただきます。

生体痛研修提供会社:株式会社マイナビ (<https://survey.mynavi.jp/cre/?enq=FFiokHrJkg%3d>)

## ■バンセイ株式会社について

「革信-BELIEVE IN FUTURE-」を企業理念に掲げ、イベントの企画・運営・制作を手がけています。国内のスポーツ大会を中心に、イベントのトータルプロデュースを手がけているほか、自社でシミュレーションゴルフの店舗「Bunny's Golf」を開設。サービスを提供するだけでなく、「日本のイベント業界を盛り上げたい」という思いのもと、積極的な事業展開を行っています。

会社名 : バンセイ株式会社

所在地 : 東京都豊島区南大塚 2-32-9

代表者 : 上田浩太郎

設立 : 1973年10月1日(グループ設立1943年10月1日)

事業内容 : イベント企画・運営・制作、装飾・ディスプレイ設計施工 他

企業 HP : <https://www.bansei-gp.com/>

## 本件に関するお問い合わせ

バンセイ株式会社 広報事務局 担当：菅頭（携帯：080-3519-8320）

TEL：03-5395-2210 FAX：03-5395-5251 / Mail：[media@bansei-tokyo.co.jp](mailto:media@bansei-tokyo.co.jp)